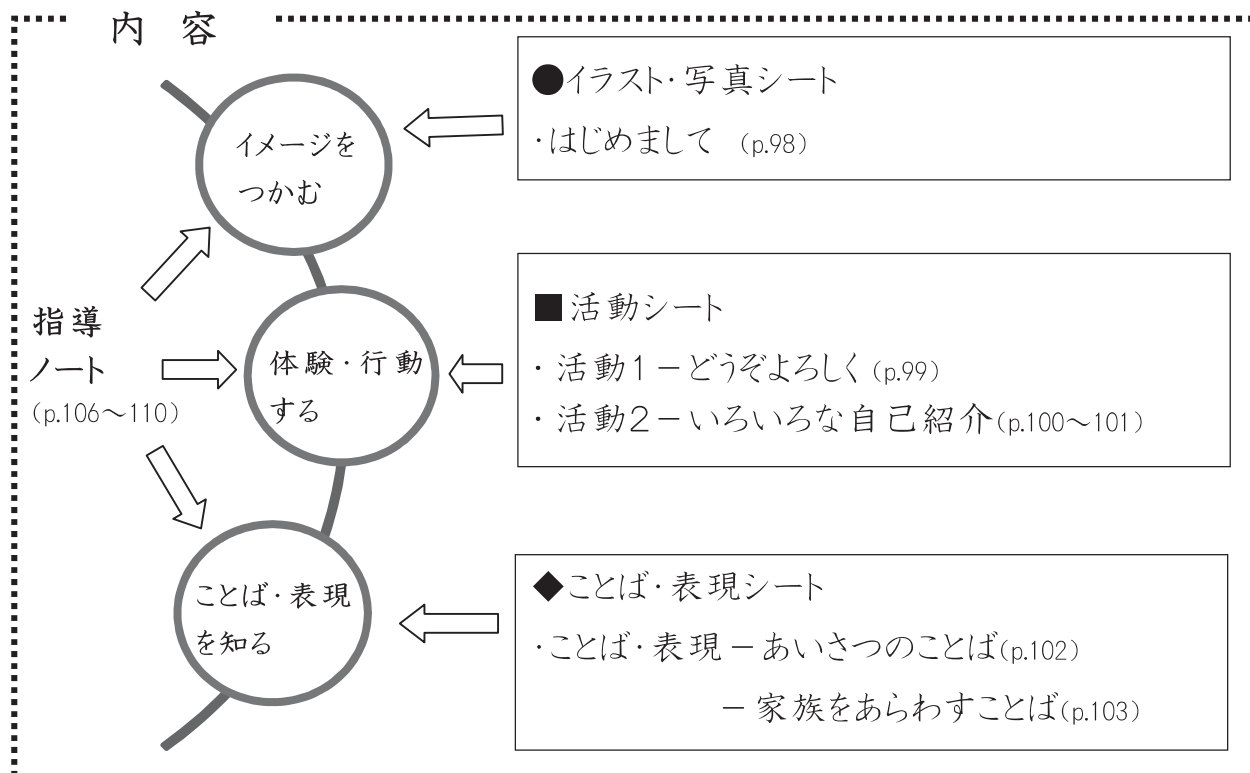


(31) ^{ひと つ あ}人と付き合う



取り上げる生活上の行為の事例

- (3102010)「自己紹介の仕方を理解する」
- (3102020)「相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する」
- (3102050)「仕事上の公的な自己紹介をする」
- (3102070)「私的な場面で自己紹介をする」
- (3101130)「人間関係のきっかけを作る挨拶をする」

教室活動の目標

- ・自己紹介をすることができる

教室活動のねらい

- ・自分の基本的な情報を伝え、初対面の人と人間関係を築く基礎を作る
- ・挨拶の種類を選択できる
- ・場面に応じた表現を選択することができる
- ・相手の立場に合わせた表現ができる
- ・敬語・丁寧体を適切に利用できる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

- (3102010)「自己紹介の仕方を理解する」
- (3102020)「相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する」
- (3102050)「仕事上の公的な自己紹介をする」
- (3102070)「私的な場面で自己紹介をする」
- (3101130)「人間関係のきっかけを作る挨拶をする」

教室活動の目標

- －自己紹介をすることができる。

教室活動のねらい

- －自分の基本的な情報を伝え、初対面の人と人間関係を築く基礎を作る。
 - －挨拶の種類を選択できる。
 - －場面に応じた表現を選択することができる。
 - －相手の立場に合わせた表現ができる。
 - －敬語・丁寧体を適切に利用できる。
- ・自己紹介は、自分の基本的な情報を伝え、初対面の人との人間関係の基礎を作るものです。自分自身のことを表現し、自身の社会参加の第一歩でもあります。場面や相手に応じた自己紹介の「型」を紹介するだけでなく、やり取りの中で、その人らしい自己紹介ができるように、一緒に考え、新しい形を作っていくこともよいでしょう。

活動前に確認しておくこと

- －学習者の名前(姓と名がある場合の順序、母語での表記、日本語での発音等)の把握
- －学習者の出身地、現在住んでいるところの地名の把握

準備する素材

- －「イラスト・写真」の拡大コピー(あらかじめ黒板等に掲示)
- －世界地図、日本地図、地域の地図(あらかじめ黒板等に掲示か、必要に応じて掲示)

－ 首からさげる名札(学習者の名前を書いておく)と机に置く名札にするA4用紙

イメージをつかむ

● イラスト・写真シート

・はじめまして(p.98)

- ・ 初回のクラスであれば、自己紹介の文脈は自然に認識されるので必ずしも必要ありませんが、「自己紹介」という概念を可視化するために、イラスト・写真シート(p.98)の拡大コピーをあらかじめ黒板等に掲示しておくといよいでしょう。
- ・ 初回のクラスで、学習者の多くが日本語のほとんどできない人の場合、「名乗り」(わたしは、〇〇です。)の導入から行う必要があります。
- ・ その場合は、名札(首からさげるものでも、机に置くものを手に持ってでもかまいません)を掲げて行います。まず、指導者が、自分の名札を示し、自分の胸を手で指して、「わたしは、〇〇〇〇です。」と言います。次に指導者は学習者一人一人について、その名札を読むようにして、「この人は、〇〇〇〇さんです。」と言い、「わたしは、〇〇〇〇です。」と言わせるように促します。その学習者に向かって手で「どうぞ」と促しながら、必要なら「わたしは……？」と言葉を添えます。「わたしは、〇〇〇〇です。」と言えたら、大きくうなずいて「いいですね」などと褒めてください。自分の名前に「さん」を付けて、「わたしは、〇〇〇〇さんです。」という学習者もいると思います。「さん」を取って、「わたしは、〇〇〇〇です。」と言い換えて、学習者にまねをさせます。この活動を全員で行います。恐らく、かなり時間がかかると思います。その場合、以下の活動は、可能な範囲で行います。

< 問いかけ例 > (※「イラスト・写真」の拡大コピーを指して)

「ここは、どこですか。」

「これは、誰ですか。」

「あなたの国では、初めて会った人とどんな挨拶をしますか。」

「日本で、初めてあった人とどんな挨拶をしましたか。」

「自己紹介はできますか。」

- ・ ここでは、以上が済んでいる学習者の場合として次の活動に進みます。

体験・行動する

■活動シート

活動1—どうぞよろしく(p.99)

- ・ 指導者は活動1「どうぞよろしく」(p.99)を配布します。また、指導者自身がワークシートに記入したのもコピーして配布します。
- ・ 指導者は学習者に「どうぞよろしく」の表現の確認をした後、ワークシートに「【1】名前」と「【2】出身」「【3】家族」「【4】すんでいるところ」を、ひらがなとカタカナを用いて記入してもらいます。
- ・ ごく初期のクラスの場合は、仮名の読みの練習・確認をするステップを入れてもよいでしょう。学習者がひらがな・カタカナが書けない場合は、アルファベット等を用いて書いてもらって指導者が仮名で併記する形で書き込んで示したり、学習者が発した音を聞いたりしてワークシートに指導者が書き込んで示してもよいでしょう。
- ・ ワークシートのそのほかの項目(【5】、【6】)は「より熟達した行動へ」の活動4で利用します。学習者に応じて利用してください。全ての項目について学習者の母語訳は適宜増減してください。
- ・ 指導者は「わたしは〇〇です」「出身は〇〇です」の表現形式を使って、自分のことを述べるモデルを示します。続いて学習者が一人ずつ言っていきます。
- ・ 同様に「家族は〇〇人です」「〇〇に住んでいます」についても行います。
- ・ 全員が終わったら、指導者は、「はじめまして、どうぞよろしくお願いします」の意味の確認をし、動作と一緒に「はじめまして、どうぞよろしくお願いします」「こちらこそ、よろしくお願いします」の表現練習をします。協力者がいる場合は、始めに指導者と協力者がモデルを示すとよいでしょう。協力者がいない場合は、この挨拶表現に慣れていそうな学習者を相手にモデルを示します。その後で、学習者と指導者、学習者同士で動作をしながら初対面の挨拶の練習をします。
- ・ 最後に、クラス(クラス人数が多い場合は、グループ)全体に向けて、自己紹介の挨拶をします。一人ひとりが、「はじめまして、わたしは〇〇〇〇です。出身は〇〇〇です。家族は〇にんです。〇〇に住んでいます。よろしくお願いします」と言って仕上げとします。

体験・行動する

■活動シート

活動シート「どうぞ よろしく」で協力者との交流活動

- ・ 日本語話者(日本人,または日本語でのコミュニケーション力のある外国人)に,協力者として教室に参加してもらい,活動2で学習した表現を使って,実際に自己紹介を行い,また協力者と学習者がペア,あるいは一人対二人か三人で,写真を見せ合いながら対話を行います。協力者に,自分の写真(出身地,家族,趣味があらわれているものなど)を持って来てもらうように,指導者は前もって連絡しておきます。
- ・ 活動1までを初回の授業で終え,交流活動を次の回で行うことが考えられるので,その場合は,初回の活動の最後に学習者にも「次回は写真を持って来てください」ということを伝えておくと,より活動が進めやすくなるでしょう。
- ・ 指導者は,学習者と協力者をペア,または小グループに分けます(協力者一人に対して学習者1~3人程度が望ましいが,協力者の人数によって適宜調整してください)。それぞれのペア又はグループで,メンバー同士で自己紹介をしてもらいます。まずは,活動1で学習した表現を使用して,一通り自己紹介ができれば,それぞれに持って来た写真を見せ合いながら,会話を進めるようにします。指導者は学習者と協力者との対話が円滑に展開しているかどうかを見守りながら目配りし,話が進まなくなっているペア/グループにおいては,対話を活性化させるための問いかけを指導者が投げかけるなどし,意思疎通がうまくいくように手助けをします。ただし,学習者側の日本語力によって,表現可能なことを全部使い果たしているようなグループが出たら,全ての協力者が一斉に別のグループへ移動することをお願いします。

体験・行動する

■活動シート

活動2ーいろいろな自己紹介(p.100~101)

- ・ 名前,出身,居住地,趣味,仕事,家族などの中から,学習者の日本語能力,場面や相手に応じて必要な項目,好きな項目を選んで自己紹介ができるようにします。

- ・ 活動シート2「いろいろな自己紹介」に示されている 例1～例4の場面別の例について、指導者は協力者と共に実演し、学習者にそれを観察してもらいます。指導者は「ここはどこでしょうか」「これはだれですか」等、各場面のイラスト等を指しながら質問し、場面や状況の違いについて気付いたことを言ってもらいます。
- ・ ビデオ機器が使える環境であれば、多様な自己紹介(初対面の挨拶)場面のビデオを見せて、さらに観察を促すのもいいでしょう。観察した場面の中で、自分が実際に遭遇しそうな場面を学習者に選んでもらい、例を参考にしながら自分なりの自己紹介をシミュレーションしてみます。

＜参考となるビデオ＞

例1)スリーエーネットワーク『みんなの日本語I 会話ビデオ』『第1課』『第2課』

例2)国際交流基金『WEB版エリンが挑戦！日本語できます』

- ・ 第1課「はじめてのあいさつー教室」

(※基本スキット、応用スキット、大切な表現、やってみよう(名刺交換)、
いろいろな使い方)

・ <https://www.erin.ne.jp/jp/>

例3)国際日本語普及協会『ようこそ！さくら小学校へ～みんななかまだ～』

「1. はじめてのあいさつ ①校長室で ②教室で」

「2. 学校生活と仲間たち ⑧運動会」(保護者とのあいさつ)

例4)国際日本語普及協会『Japanese for Busy People I: The video』Lesson 1

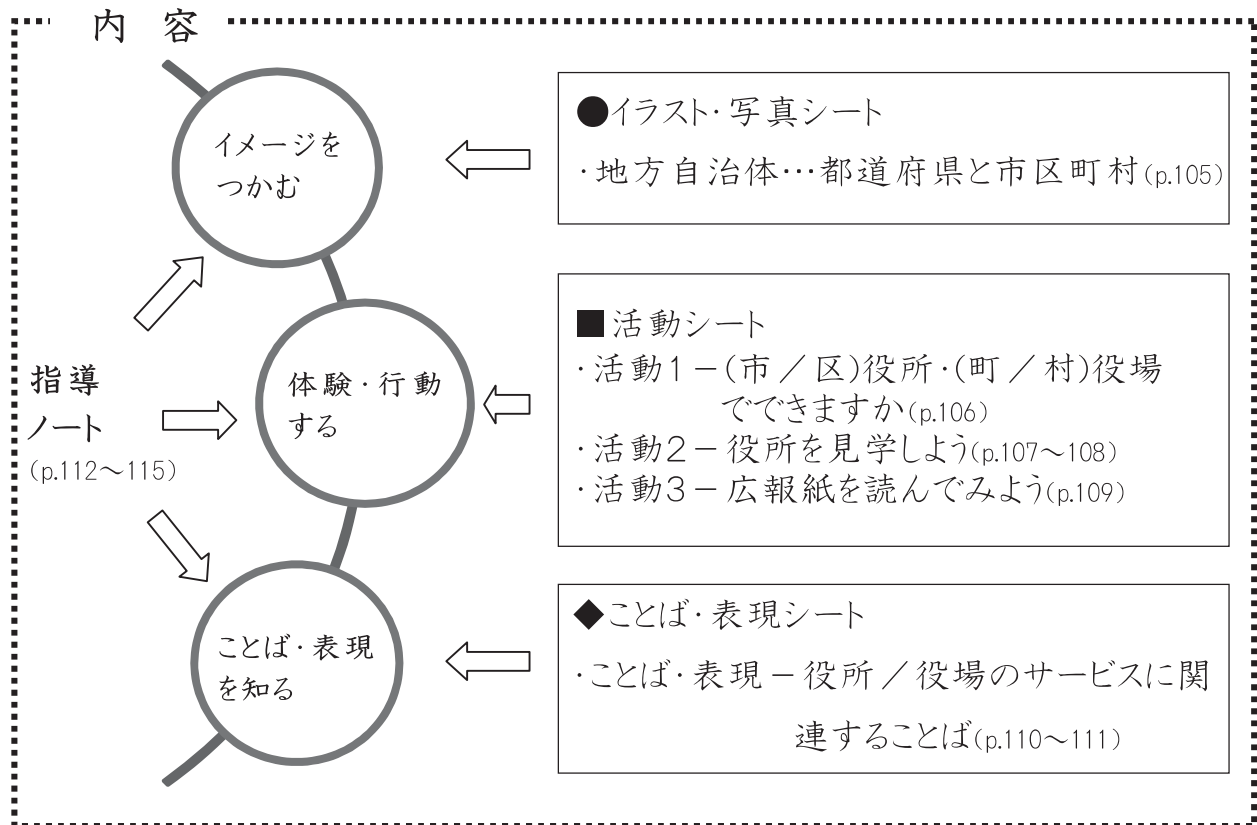
＜社会文化情報＞(指導者、協力者の参考資料として)

・ 文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について』

- ・ p.96 「社会・文化的情報 3102010 自己紹介の仕方を理解する」
- ・ p.97 「社会・文化的情報 3102020 相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する」

じゅうみん て つ づ き

(33) 住民としての 手 続 を す る



取り上げる生活上の行為の事例

- (3301020)「各種手続の種類や内容について理解する」
- (3301080)「役所の受付で外国人登録窓口の場所を尋ねる」

教室活動の目標

- ・自治体への届出・手続や受けられるサービスを知り, 利用できる

教室活動のねらい

- ・市区町村の役所・役場でできること／できないことを知る
- ・役所・役場にはどのような窓口があるかを理解する

自治体の広報紙から, 必要または有益な情報を得る

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(3301020)「各種手続の種類や内容について理解する」

(3301080)「役所の受付で外国人登録窓口の場所を尋ねる」

教室活動の目標

－自治体への届出・手続や受けられるサービスを知り、利用できる。

教室活動のねらい

- －市区町村の役所・役場でできること／できないことを知る。
 - －役所・役場にはどのような窓口があるかを理解する。
 - －自治体の広報紙から、必要または有益な情報を得る。
- ・「生活者としての外国人」がその地域の住民として暮らしていく場合、さまざまな手続をしたり行政サービスを受けたりすることになり、都道府県や市区町村といった地方自治体との接点が生まれるはずです。法令上必ず行わなければならない手続もありますし、(義務ではないにせよ)生活するうえで有益なサービスもあります。それらは日本語以外の言語で対応できるものも少しずつ増えてきましたので、そういった多言語でのサービスがあることを知っているだけでも生活行動の幅が変わってくるのではないのでしょうか。
- ・(1)役所・役場の窓口で日本語でのやり取りができるようになるのももちろん素晴らしいことですが、それ以上に、まずは(2)役所・役場の窓口で何らかの目標行動を達成できること、そしてそのために必要な(3)知識・情報を(母語または日本語で)得ておくことを目指したいものです。ここでは、そうした教室活動を展開してみましょう。

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・地方自治体…都道府県と市区町村(p.105)

- ・最初にイラスト・写真「地方自治体…都道府県と市区町村」(p.105)を学習者と一緒に見ながら、日本語または学習者の母語などで、以下のようなやり取りを試みましょう。

＜やり取りの例＞

「これは何ですか。日本の地図ですね。都道府県に分かれています。日本に都道府県はいくつありますか。いくつ知っていますか。みなさんは、どの都道府県に住んでいますか。」

「みなさんが住んでいる都道府県には、市区町村はいくつありますか。いくつ知っていますか。みなさんは、どの市区町村に住んでいますか。よく買い物をする店や病院、職場なども、同じ市区町村にありますか。」

「下の写真はどこですか。何をするとところですか。行ったことはありますか。いつ行きましたか。そこで何をしましたか。どうでしたか。」

- ・このようなやり取りを通じて、日本の地方自治体は都道府県と市区町村の2層制(政令指定都市などの場合は3層制)であることを理解しつつ、より身近な自治体としての市区町村の役所／役場と学習者との間で、どのような接点があるかを考えることができるでしょう。学習者自身が持っている行政に関するイメージが整理され、さらに活性化されるだけでなく、指導者が今後の活動展開を考えていく上で、きっと役に立つはずです。

体験・行動する

■活動シート

・活動1－(市/区)役所・(町/村)役場でできますか(p.106)

- ・「活動1」(p.106)は、市区町村の役所／役場で「できること」と「できないこと」の判別を行う教室活動です。辞書を引くことがスムーズにできる学習者なら日本語のシートのままでも可能ですが、ここでは辞書を使うことが目的ではないので、辞書がうまく使えない学習者の場合にはあらかじめ母語に置き換えたシートでやって

みるといいでしょう。丸数字の左にある「()」は、○×を(予想して)記入するのに使えます。

- ・ 学習者の出身が多様である場合、あるいは日本人の協力者が参加できる場合には、それぞれの事項が出身ではどこでできるかを話し合い、相互理解につなげることもできるでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－役所を見学しよう(p. 107～108)

- ・ 「活動2」(p.107～108)は、実際に地元の役所／役場を見学し、役所/役場で何ができるかを知る教室活動です。このシートには例として宇都宮市役所(栃木県)の片内案内図を掲載していますが、こうした案内図が入手できる場合には事前または事後に目を通して、どこの課で何ができるかやり取りをする展開も可能です。
- ・ 実際の見学に際しては、次のような課題を与えることもできるでしょう。

<課題の例>

- 1) 役所/役場は何時から何時まで開いていますか。休みはいつですか。
 - 2) 住民登録はどこでできますか。
 - 3) 地域の日本語教室についての情報はどこで教えてもらえますか。
 - 4) ゴミの出し方についてのパンフレットはありますか。
 - 5) 広報紙はもらえますか。
- ・ また、後述の「活動3」を先に行い、そこで学習者から出た疑問点を所管の窓口で質問してみるという方法もあります。学習者の生活上のニーズを勘案して、課題をいろいろとアレンジしてみましよう。
 - ・ 安全管理などの観点から、役所／役場の見学には事前に申請が必要な場合もあります。特に、役所／役場の職員に活動の協力者となってもらう場合には、活動の趣旨を含めて事前にきちんと連絡しておきたいところです。

体験・行動する

■活動シート

・活動3－広報紙を読んでもみよう(p. 109)

- ・「活動3」(p.109)は、地元自治体の広報紙を読み取る練習です。このシートには例として一つの記事を取り上げていますが、一つの記事をじっくり読み込むことよりは、むしろ最初に広報紙全体の構成にざっと目を通し、必要または有益な情報がどの辺りにあるか把握することから始める方が、実際の生活場面で行う行動に即していて、より自然でしょう。
- ・日本人の協力者がいる場合には、必ずしも学習者自身が全てを読み込む必要はありません。学習者が分からない点を協力者に尋ねる形や、協力者が学習者の家族構成や日常生活でのニーズ・困難な面を知る仲であれば、やり取りをする中で協力者の側から広報紙の内容を紹介する形なども可能です。

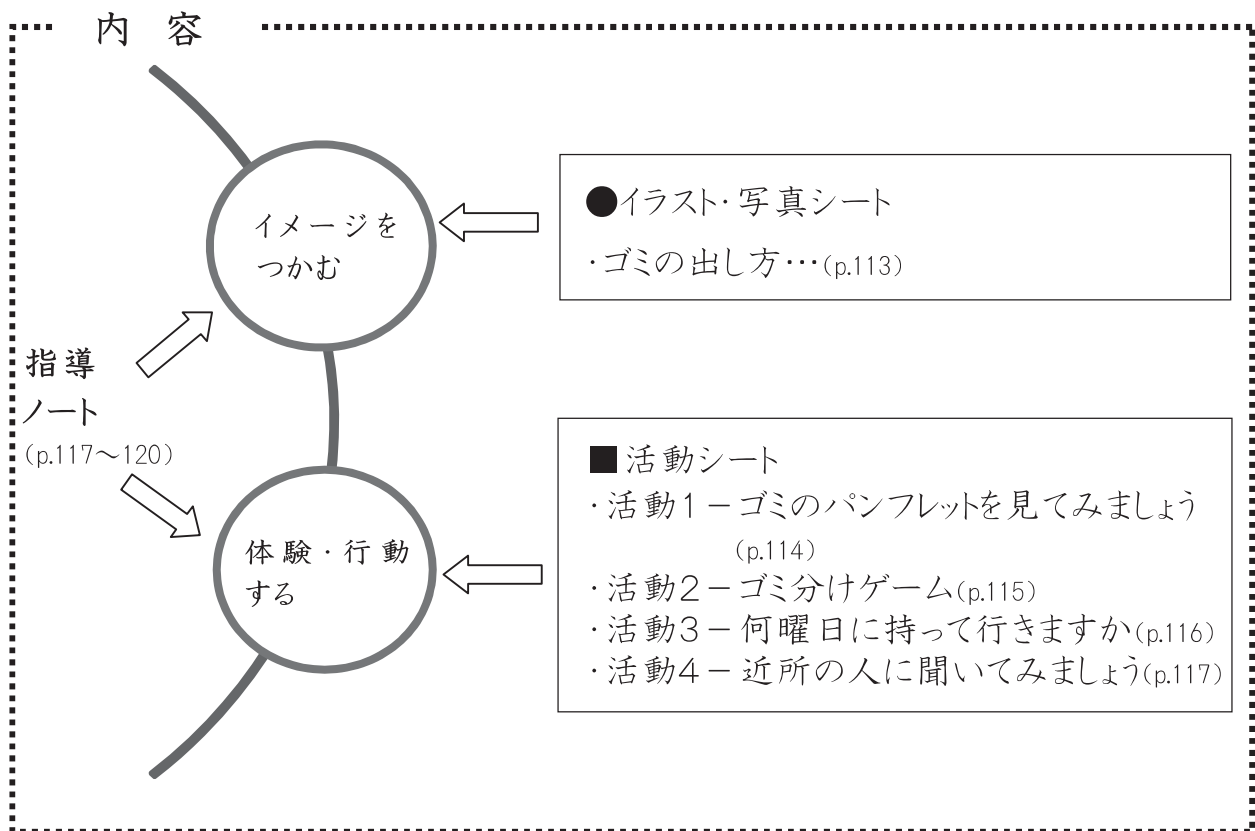
ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－役所／役場のサービスに関連することば(p. 110～111)

- ・「ことば・表現－役所／役場のサービスに関連することば」(p.110～111)は、役所／役場におけるサービスの種類や手続に際して見かける単語を並べてあります。学習者のニーズに応じて適宜確認してください。

じゅうみん まな－まも
(34) 住民としてのマナーを守る



取り上げる生活上の行為の事例

(3401040)「居住地域のゴミ出しについて地域の公共機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する」

(340180)「居住地域のゴミの出しの方法について隣人に質問する」

教室活動の目標

・ゴミ出しの仕方等，住民として地域のルールについての情報を入手・理解する方法を身につける

教室活動のねらい

・生活情報パンフレット，広報，町内の掲示などを読んで，ゴミ出しの仕方を理解することができる
・分からないことを隣人等に質問して確認することができる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(3401040)「居住地域のゴミ出しについて地域の公共機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する」

(340180)「居住地域のゴミの出しの方法について隣人に質問する」

教室活動の目標

－ ゴミ出しの仕方等，住民として地域のルールについての情報を入手・理解する方法を身につける。

教室活動のねらい

- － 生活情報パンフレット，広報，町内の掲示などを読んで，ゴミ出しの仕方を理解することができる。
- － 分からないことを隣人等に質問して確認することができる。

活動前に確認しておくこと

- － 学習者の居住地域のゴミの分別方法，出し方のルール
- － 学習者の居住地域のゴミ収集日
- － ゴミの分別や回収方法，リサイクル等について，行政の職員と協働でのワークショップが可能かどうか

準備する素材

- － 学習者の居住地域のゴミの分別方法，出し方のルールについてのパンフレット等。日本語と共に，できるだけ学習者の使える言語のものを準備し，日本語と対照させることができるようにする。
- － 学習者の居住地域のゴミ収集所の掲示板の写真
- － ゴミのサンプル または イラスト（分別の実体験用）

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・ゴミの出し方… (p.113)

- ・ 「イラスト・写真シート」(p.113)のゴミの出し方のパンフレットの例、又は、できれば自分たちの地域でのパンフレットの実物を提示しながら、このパンフレットにはどのようなことが書いてあるか、問いかけ、推測してもらいます。学習者に、普段、どのようにゴミを出しているか（何曜日にゴミを出すか、どこに持っていくか、どのように分別するかなど）を尋ね、話してもらうようにします。

<問いかけ例>

「これは何ですか。」

「どんなことが 書いてあると思いますか。」

「〇〇さんの ところでは 何曜日に ゴミを 出しますか。」

「どこに ゴミを 持って行きますか。」

体験・行動する

■活動シート

・活動1ーゴミのパンフレットを見てみましょう (p.114)

- ① 学習者の住む地域のゴミ出しに関する日本語版のパンフレットと学習者の言語の翻訳版でのパンフレットがあれば、それぞれ学習者に配布します。
- ② 日本語版と翻訳版を照らし合わせながら、ゴミの分別に関する主要なことばの意味を確認します。学習者の言語の翻訳版が無い場合は、イラストや実物等を活用しながら、指導者とのやり取りの中で、意味が理解できるように促します。p.114の表に、学習者の言語で、ことばの意味を記入させます。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－ゴミ分けゲーム (p.115)

- ・ 自分たちの住む地域のルールに従って(パンフレット等から入手した情報に基づいて), ゴミ分けの練習をします。
 - ① 分別用の箱や袋を準備します。当該地域のルールに基づいて, 「燃やすゴミ」「燃えないゴミ」「びん・かん」「プラスチック」などとラベルを付けておきます。
 - ② クラスを2つのチームに分けます(人数によってチームの数は調整)
 - ③ パンフレットで確認した内容に従って, イラスト(記号をつける, 又はカード状に切り分ける)や実物をそれぞれの箱や袋に分別して入れます。
 - ④ それぞれのチームの分別の結果を確認します。
-
- ・ 自治体の行政職員でゴミの捨て方などを担当している人にもあらかじめ連絡を取って参加してもらい, 審判をしてもらったり, 分別に迷うものについて解説してもらうのもいいでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動3－何曜日に持って行きますか (p.116)

- ・ ゴミ集積所(ゴミステーション)の掲示を見て, 何曜日にどの種類のゴミを出すのかを読み取れるようにします。
-
- ① 学習者に活動シートを配布します。
 - ② まずは, シートに掲載した写真を見て, 右のイラストのごみの回収日はいつか(何曜日か)を, 学習者に考えて記入してもらいます。
 - ③ 学習者に, 自分の住まいの近くの集積所の写真を, 次回までに撮ってくる(携帯メールなどで)か, または, 書き写してくるよう伝えます。
 - ④ 次の回で, 学習者が持参した写真(またはイラスト)を, 互いに見せ合い, それぞれの地区での, 回収日の違い, 掲示の仕方等についての違いを話し合いながら比べ, 発表すると面白いでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動4ー近所の人に 聞いてみましょう (p.117)

- ・ ゴミを持っていく場所が分からない時に、近所の人に尋ねる会話を、確認します。また、自分が他の人に尋ねられたときに、答えられるようになることも目指します。
- ① 活動4の会話を指導者と学習者で実演をします。協力者がいる場合は、協力者にも参加してもらうとよいでしょう。
- ② 学習者は2人1組でペアになり、会話の練習をします。「Bさん」の役になった人は、自分の地区でのごみの捨て方を、相手に説明してみます。

【参考情報】

1) 経済産業省 3R政策ホーム(経済産業省が提供するゴミのイラスト素材集)

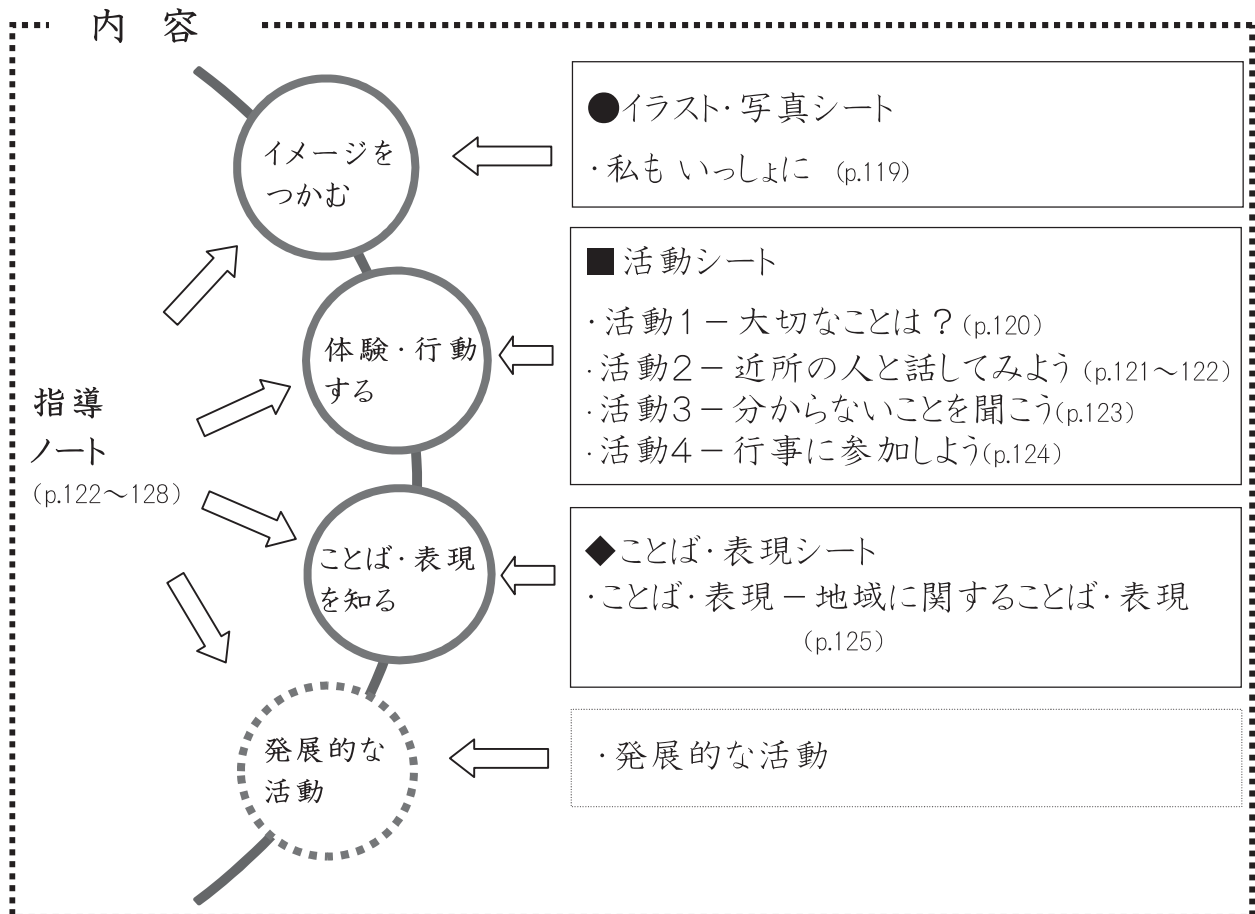
・ <http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/illust/index.html>

2) ゴミ収集日お知らせサービス 53cal(ゴミカレ) :

・ 全国主要都市のゴミ収集日をカレンダーで確認できます(学習者の居住地区での収集日を確認するのに役立ちます)

・ www.53cal.jp/

ち い き し ゃ か い さ ん か
(35) 地域社会に参加する



取り上げる生活上の行為の事例

(3501050)「自治会の会員になる」

(3501100)「行事に参加する」

教室活動の目標

・地域社会に参加して住民とつながりをもつ

教室活動のねらい

- ・自治会参加の意思を伝えることができる
- ・参加の方法について質問することができる
- ・行事について情報を得ることができる
- ・行事を通じてほかの会員と交流できる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(3501050)「自治会の会員になる」

(3501100)「行事に参加する」

教室活動の目標

－ 地域社会に参加して住民とつながりをもつ。

教室活動のねらい

- － 自治会参加の意思を伝えることができる。(活動2)
 - － 参加の方法について質問することができる。(活動2))
 - － 行事について情報を得ることができる。(活動3 活動4)
 - － 行事を通じてほかの会員と交流できる。(活動4)
-
- ・ 日本に来て間もない外国人にとって、日本社会に溶け込むきっかけは見つけにくいものです。長年日本に住んでいる外国人でも、人によっては同じかもしれません。自治会に入って、災害に備えて防災訓練に参加したり、夏祭りや町会のバザーなどに協力したりすることで、多くの住民とつながることができるでしょう。ここでは、そのための足掛かりを提示しています。また自治会主催のほかにも、商店街や地域の学校主催の催し、区や市が主催するフェスティバルなど、様々な地域の取り組みをここで紹介しておく、よいでしょう。
 - ・ 地域によって、多言語での生活情報の冊子や災害対策の冊子を発行しているところが増えています。そのようなものがあれば、地域の出張所などに置いてあるので、学習者に配布し、何がどこに書いてあるかを皆で確認しながら一度目を通しておくと、役に立つでしょう。

活動前に確認しておくこと

- － 地域の自治会の活動内容
- － 地域の防災訓練などの日程
(外国人向け防災訓練や防災教室がある自治体もあります)
- － 自治会主催以外の地域の催し

準備する素材

- － 学習者の居住地域の自治体が発行している地域の多言語情報誌など
- － (もしあれば)地域の自治会入会申込書
- － 地域のお知らせ情報(街の掲示板のお知らせや回覧板のお知らせなど)
- － 活動1で使用する台形のカード(画用紙または厚紙で、学習者一人につき6枚ずつ)

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
私も いっしょに (p.119)

- ・ 「イラスト・写真シート」(p.119)を見せて、それぞれ、何をしているのか、見たことがあるか、どんな人たちが参加していると思うかなど聞いてみましょう。服装や周りの様子などから、季節を想像してもらってもいいかもしれません。ほんの一部ではありますが、年間を通していろいろな活動があることが見えてきます。しばらく、「イラスト・写真シート」(p.119)について、やり取りした後で、これが自治会または町会(町内会)の活動であることを伝えてください。そして、学習者が地域の人たちと現在どのような関係にあるか、話してもらいましょう。さらに可能であれば、自国の町で自治会のような組織があるか、または住民同士のつながりはどのようになっているかなどについて聞いてみてはいかがでしょうか。

< 問いかけ例 >

- 「近所の人に挨拶しますか」
- 「近所の人と話しますか。どんなときに話しますか。何を話しますか。」
- 「あなたの町で盆踊りやバザーなど見たことがありますか」

「町の盆踊りやお祭り，防災訓練に参加したことがありますか」

「あなたの国では町会がありますか。」

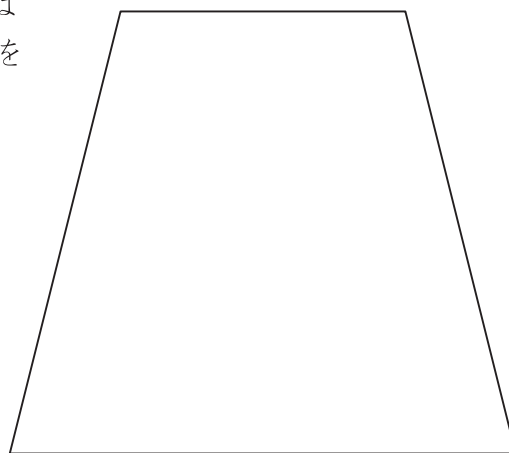
「あなたの国では町でどんなことをしますか。」

体験・行動する

■活動シート

・活動1－大切なことは？（p.120）

- ・ここではまず，地域住民とつながることによって，どんないい点があるかを考えることで地域社会への参加の動機付けを行います。近所の人と知り合いになっておくと，日常生活でのちょっとしたやり取りで，住みやすい環境作りができるとともに，防犯や，いざというときにも心強いものです。また地域住民との絆は，地震など災害が起こった時の物心両面での支えにもつながります。
- ・地域住民とよりよい関係を築くためのイメージトレーニングとして，個々に何が大切かを考えてもらいます。完成したら，ほかの学習者のものと比べ，簡単な意見交換をすることで，コミュニケーションで大切なことを意識してもらうことを目的としています。もちろん，日本語初級者にとって，カードに思っていることを書くことは難しいでしょう。「笑顔(smile)」，「ゆっくり(slow)」，「はっきり(clear)」，「目を見る」など簡単な言葉，あるいは絵でも構いません。意見交換と言っても，自分が大切だと考えていることが身振り手振りでも伝えられればそれでよいでしょう。指導者や協力者もいっしょに参加するつもりで進めてください。
- ・学習者一人につき6枚ずつ，画用紙または厚紙で作成した台形のカード(右図参考)を配布してください。並べ方など示すために，一組余分に作成しておくといよいでしょう。



体験・行動する

■活動シート

・活動2－近所の人と話してみよう(p.121～122)

- ・ここでは、近所の人とのちょっとした会話の場면을提示しています。ゴミ出しのときと相手の家に自国の料理を持って行ったときの会話が表示していますが、このほかにも、店や駅で会ったとき、回覧板を回す時など、会話の場面はいくつもあるので、様々な場面を設定して、会話を練習してみてください。
- ・会話例1では、自治会参加の意思を伝えています。この後の流れとして、自治会役員の人を訪ねてきて、簡単に自治会の説明(会費など)をし、学習者は申込書の記入を求められて記入する、その際、分からない部分を聞く、そのほかに聞きたいことを質問する、などのタスクが考えられます。必要に応じて、会話練習を行ってください。自治会の入会方法は地域によって様々で、自治会の役員や町会長に直接連絡すればそれでよいというところもあるようです。申込書を記入する場合も、フォームは一定ではありません。ただ、基本的な住所、氏名、電話番号、日付はいつでも書けるように、しておきたいものです。一例として以下のフォームをあげておきますので、ここで練習しておくといよいでしょう。

自治会加入申込書

平成 年 月 日

自治区長 殿

世帯主氏名			
住所			
電話番号		世帯の 人 数	人

自治会に加入したいので、申し込みます。

この申込書では、日付は元号で書くようになっています。西暦のほか、元号でも書けるようにしておくといでしょう。自治会は世帯単位で入るところが多く、その場合は世帯主、世帯人数を書くようになっています。「世帯」という語彙も、押さえておいてください。地域の自治会の加入申込書がもし手に入れば(インターネットからダウンロードできるようになっているものもあります。), 実際にそれに記入してみるといでしょう。

- ・ 自治会は、地域住民の自主的な意思に基づき、地域を快適で住みよくするために結成された任意の団体で、コミュニティ作りの中心的な存在です。加入は強制ではないとはいえ、ゴミの収集や防犯パトロールなどその地域に住む限り、多くの恩恵にあずかっています。
- ・ 学習者がその地域住民とつながりを持つことが日本社会で生活していく第一歩であり、自治会加入はその足掛かりとなります。

・ 会話例2では相手の家を訪問する場面を提示しています。自国の料理を持って行くほかに、果物や食材など、自国からたくさん送られてきたり、友だちからもらったりしたものをお裾分けする場面なども考えられます。また、分からないことを聞くために隣の家を訪ねることもあるかもしれません。訪問時の挨拶、話題、終わりの挨拶の流れがスムーズにいくように、必要と思われる場面をいくつか設定して、練習してみてください。

多言語情報例

文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』

p.61 自治会

体験・行動する

■活動シート

・活動3－分からないことを聞こう (p.123)

- ・ 町の情報は、チラシやポスター、回覧板など、書かれたものが中心です。ここでは、それらを見て分からないことを臆することなく聞けるようにすることを目指しています。
- ・ 「秋まつりのお知らせ」を見て、学習者にまず何が書いてあるか推測してもらいましょう。学習者が分かるのは恐らく、日付と時間の部分くらいではないでしょうか。漢

字が分からなくても、例えば、これは開催場所だということが分かれば、それも有用な情報収集です。

- ・ 会話例では、「これは、何という意味ですか」というフレーズがポイントです。ただ、この発話が難しい、あるいは覚えられないという学習者には、指差して「これは何ですか」と質問できれば、十分です。聞かれた日本人は、読み方や意味を話してくれるでしょう。分からないことを聞いて、とにかくそれが分かるようになることが大切です。この「盆踊りのお知らせ」を使って、指導者または協力者が相手になって、学習者に分からないところを質問してもらってください。
- ・ 日本語が分からないゼロ初級に近い学習者には辞書で内容を示してあげるとよいでしょう。
- ・ 実際の地域の「お知らせ」を持参して、皆で、どんなことが書かれているか推測した上で、分からないことばを質問してもらうのも有用でしょう。推測することも一つのトレーニングとなります。

体験・行動する

■活動シート

・活動4－行事に参加しよう（p.124）

- ・ (1)は、町でどのような行事があるのか、指導者または協力者と一緒に調べることで、地域の行事に興味を持ってもらい、身近に感じてもらうことがねらいです。町に出る時も指導者または協力者が同行してください。掲示板にはこのような情報があるなど実地で説明できるよい機会となるでしょう。（前もって下見をしておくといいかもかもしれません。）市役所や出張所などにどのような情報誌が置いてあるか、多言語情報誌はあるかなども前もって調べておくといよいでしょう。
- ・ 指導者や協力者が所属している自治会についての行事を年間で把握しておき、自分の体験や行事の様子など伝えてあげるとよいでしょう。年間を通して大体どのような行事があるか、学習者が知っておくのも大切です。
- ・ 町や区、市の行事はインターネットでも調べられることが多くなっています。自治会についても載せているところがあるようです。学習者にとって、日本語でネット検索を試みるよい機会となりますので、ぜひともここで一緒にやってみてください。

- ・ (2)で実際に行事に参加する際、どのような行事でも構いませんが、できれば防災訓練や清掃ボランティアなど、日本人とコミュニケーションする場面が多くある行事の方が地域住民とつながりを持ちやすいでしょう。学習者が一人で参加するのが心細いようであれば、友だちといっしょに参加することを勧めてみましょう。外国人の方の参加は地域住民に大いに歓迎されるに違いありません。そこで日本人とコミュニケーションして、お互いに知り合いになれば、学習者も大いに自信が持てるのではないのでしょうか。とにかく参加したことで、大きな第一歩を踏み出したと言えるでしょう。
- ・ (3)は全ての学習者が一通り行事の参加を体験してから行います。いつ、どこで、どんな行事に参加したか、そこで何をしたか、日本人とどんなことを話したか、参加してどう思ったかなど、話し合うとよいでしょう。学習者の日本語レベルに応じて(初心者レベルの学習者であれば、絵を描いたり、身振り手振りを取り入れるなど)、適宜対応してください。同じ外国人として、地域とつながりを持つヒントがお互いに得られるのではないのでしょうか。

ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

- ・ ことば・表現－地域に関することば・表現(p.125)
- ・ ここでは自治会(町会)の行事に関することば、お知らせなど印刷物によく出てくることばや表現を中心に取り上げています。ほかにも授業中の学習者との会話や印刷物などで出てきたことばなどもよく使われるものはここで学習しておきましょう。「～する」といように最後が「する」で終わる動詞が多く出てくるのも特徴です。

発展的な活動

- ・ 活動4では、地域の行事に参加して、地域住民とつながりを持つことを目指しました。地域住民とつながりが持てたら、今度はさらに一歩進んで、行事に積極的に関わってみることを勧めてみてはいかがでしょうか。(例えば、バザーのときに国の料理を作って売ったり、盆踊りの会場作りをしたりなど。)
- ・ 地域住民との様々な交流は、学習者の日本での生活を豊かにしてくれることでしょう。